

アート&テクノロジー東北 2023 講評

コロナ禍によって活動が制限され、ホームページ開催のみとなっていた本コンテストもようやく対面での開催を行うことができました。しかしながら、コロナ禍以前には参加していただいていた団体様も、一度途切れてしまったルーティンが復活できなかつたり、他の様々なイベントが再開して忙しくなったりしたこともあるのか、本コンテストへの応募総数は 24 点に留まってしまいました。また、実施日の盛岡市でも大雨警報が出るくらいの天候不順に見舞われ、来客数が減ったことはもちろんのこと、参加者の身の安全を第一に考え、発表イベントは早めに終了することになりました。

そのようななかでも、本コンテストの主軸となっていた作者本人によるプレゼンテーションが実施できたことで、会場はクリエイティブな雰囲気にもまれ、研究成果の発信と共有を行うことができました。

審査の結果、最優秀賞となった作品「新生児育児体験ロボット CryingBaby」(小坂崇之)は、他の作品から大きな差をつける得票がありました。これから育児を行う予定の人々を対象に設計された赤ちゃん型のロボットは、「だっこ・ミルク・おむつ交換」でどのように泣き止ませることができるのかの体験を提供するものですが、育児経験者にもたいへんだった当時を思い出させて感動を与えていました。これから様々な話題や反響を呼ぶものであると思われま

優秀賞の「PLATFORM」(艾沢詳子+青木広宙)は、人が生きる社会基盤をモチーフにした大型インスタレーション作品であり、会場での展示は難しかったために映像作品として審査されました。暗室には繊細な白いヒト型オブジェが約 2000 体も配置されており、LED 照明の制御で無数の陰影が壁面に浮かび上がっています。鑑賞者の位置や呼吸を非接触で計測して照明を制御する試みによって、幻想的な空間が刻々と作りだされています。

同じく優秀賞の「JUMP GUYS」(八戸高専 A グループ)は、画面上で回転するバーをジャンプするか、しゃがむかで避けていくという二人で対戦するアクションシステムでした。加速度センサを身に付けて明確な動作で作動することに成功しており、小学生でも簡単に楽しめるという目的に合致していました。さらに同校の「THE・餅つき」(八戸高専 B グループ)も優秀賞で、こちらは小学生に餅つき体験をしてもらうことを目的としたシステムでした。ピコピコハンマーの内部と自作の臼に取り付けられたボタンが Arduino と接続されて餅つきを何回やったかを判定することに成功していました。どちらのグループも若い皆さんが楽しく開発に取り組み、そしてデモンストレーションしている様が輝かしいものにみえま

した。

審査員特別賞の「相思相 AI」（葛城玲弥）は、Web カメラから入力された物品の画像を画像認識 AI に識別させ、その認識率が何%であるかをユーザーに入力させるゲーム形式のインタラクティブ作品でした。昨今の AI の進歩とともに、人が AI の身になって考えてみるような面白い設定であると感じました。

奨励賞は学部生以下の方々が対象で、「音響迷路」（岩手大学 萩原研究室）、「Dunharrow's Rock / ダンホロウ岩」（ジョシュア・リュー）、「電源コード不要！ワイヤレス給電「ムクムクうごく線人間」」（祐誠コロキウム）が受賞されました。これからは楽しみな方々です。

残念ながら受賞されなかった作品についても、それぞれ独自性のある新たな創造の試みを感じられ、今後、益々の発展が期待できるものばかりです。ご応募いただき、誠にありがとうございました。

2023 年 7 月 15 日

岩手大学 人文社会科学部
教授 本村 健太